

蔵しを守る家

増田の内蔵商人の町として栄えた増田で、商店の後ろに内蔵を設けた家は、居室として入り交じり、家族の人も住まう家の中で、内蔵は当主や家族だけのために存在する特別な空間であった。コロナ禍において仕事が住まいに持ち込まれた現在、我々は、私的空間を確立するという目的が、増田の内蔵と合致している点に注目した。加えて蔵の持つ性質を十分に活用した、全く新しい「蔵し」をここに提案する。

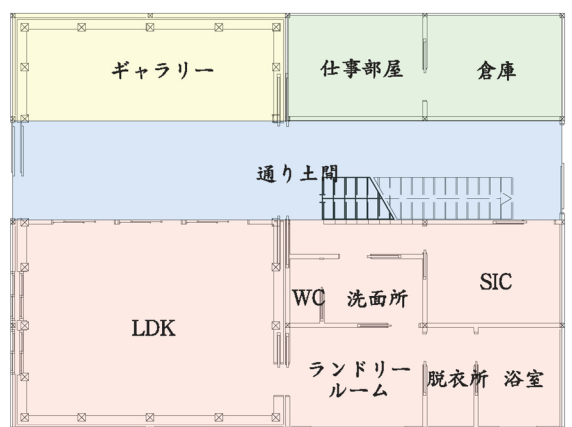


家族構成



01 家族を守る空間

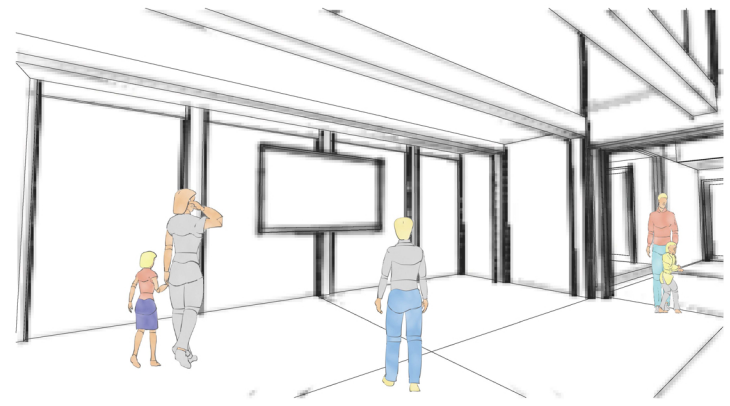
土間や吹き抜けによって生まれる「間」を利用した開放的な蔵とすることで、家族との繋がりを感じながらも、個の時間や仕事の時間を大切にできる。



パブリックスペース 仕事スペース 通り土間 プライベートスペース

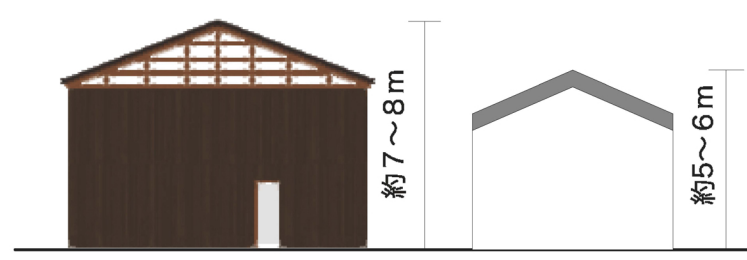
02 文化を守る空間

蔵の一部にギャラリーを設け写真の展示やオープンスペースとして活用することで、来客が内蔵の文化に触れる機会を提供し魅力を発信する。普段は子供や愛犬との遊び場、シアタールームとして利用できる。



03 地域を守る空間

コロナによって分散避難が求められるようになったことから、災害時の避難場所として蔵を提案し、避難所の点在する新たな町づくりを考えた。他の住宅と比べ1~2m高く、存在感のある内蔵の家は地域を守る避難場所としての役割をもつ。



04 室内空間を守る空間

漆喰で仕上げられた土壁の蔵は耐火性、調湿性に優れており、快適な空間が確立される。東西を結ぶ通り土間は家全体に風を通し夏は涼しく、蔵の外壁が厚く母屋の壁にも囲まれていることにより冬は暖かく過ごせる秋田の気候風土に適応した住まいとなっている。

